明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷

第十號

明治三十七年十月二日發行

子供心（安部磯雄）……一
家庭理科趣味ある問答（久田二葉）……三
○草葉にはナゼ露が多い？　○光が強くて熱くない燈火はなきや○溫州蜜柑にナゼ種がない？　○花の色が變らぬ工風　○日本人は何故鹽を多食するや
菊の歌（十月のハナ）……
英國の家庭教育（渚山譯）……六
九　新生涯の曙光　十　榮ゆる家
洋食と其藥味（綠亭主人）……一七
○胡椒　○芥子　○蕃椒　○蒜
料理の栞……二〇
○ヘットの製法　○マヨ子ーズソースの作り方
愛の教育（木下尚江）……二三
大平洋食堂……二六
二葉園藝……二六
○草木に關する迷信　○菌　○落葉集　○キャベヂーの種類
○吾が庭の秋
妻に與へたる予の手紙（堺枯川）……二九
若き後妻（渚山）……三一
『思ひ出の記』……三二

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる
▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尙現社會を忘るゝことなし
▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す
▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子教育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

每週 月曜

定價一部三錢
三ヶ月卅七錢
半年七十二錢
全國無郵稅

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず
▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず
▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり
▲夫人令孃女教師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

發行所 東京市牛込區東五軒町四一（電話番町千三百六番）婦女新聞社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割增の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十七年九月廿九日印刷
明治三十七年十月二日發行

發行兼編輯人 東京府豊多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎

印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助

發行所 東京麴町區中六番町十番地 由分社

大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地 近藤商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

改良ロンテニス
櫻二重枠ラケット一組

一號品	一三、三〇〇
二號品	一一、七〇〇
三號品	九、五〇〇
四號品	八、二〇〇
五號品	七、二〇〇
六號品	六、二〇〇

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五〇
二號	一張五間半	二、二五〇
三號	一張六間	二、四五〇
四號	一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●本社取次書目●

社會主義入門
定價十錢　郵税無し

▲共同生産（西川光次郎）▲階級戰爭（堺枯川）▲社會主義のイロハ（石川三四郎）▲社會黨の運動（幸德秋水）▲社會主義と中等社會（堺枯川）▲社會主義論（安部磯雄）▲三月五日初版二千部、七月十五日再版五百部發行九月十五日三版發行

百年後の新社會
堺枯川譯　定價五錢　郵税二錢

▲此書は米國ベラミー氏の名著ルッキング、バックワードを縮譯した者で最も善き社會主義の理想小說であります▲他の書籍と同時に御注文あれば別に郵税は入ませぬ▲三月九日初版千部、五月十六日再版千部、九月一日三版千部發行

小說 火の柱
木下尚江著　定價卅五錢　郵税無

▲社會主義の思想と基督教の信仰とが如何に此書の中に融和結合せられたるかを見よ▲六月十日初版二千部、八月十日再版五百部發行▲再版には雪の如く梅の如き女主人公と、鐵の如く松の如き男主人公との畫像を挿めり。目下三版發行

消費組合の話
石川旭山著　定價十二錢　郵税無し

▲消費組合は英國の勞働者をして自立自營以て其厄を免れしめたる自助的團體なり▲消費組合は其組合員をして知らぬ間に獨立自由の人たらしむる唯一手段也▲消費組合は日本産業組合法中に於ける購買組合と同一物也▲五月廿四日初版千部、九月一日再版五百部

地上の理想國 瑞西
安部磯雄著　定價十五錢　郵税無

▲日露戰爭に熱中して徒らに國威の發揚を喜び漫に領土の膨脹を望める不幸なる日本人は歐洲の中心に於ける此幸福なる一小中立國の國情に見て深く學ぶ所あるべき也▲五月廿八日初版二千部發行

社會民主黨建設者 ラサール
幸德秋水　價十五錢　郵税無し

▲ラサール其人が主義の爲に生き、戀愛の爲に死せる一生の經歷と及び其前後の形勢とを詳叙し、多大の歷史的智識と小說的興味とを兼有す、▲九月一日初版二千部發行

土地國有論
西川光次郎著　定價十錢　郵税無し

▲土地問題の解決は、多數勞働者をして地代小作料の負擔より免れしむるに在り▲此目的を達せんと欲せば即ち土地國有を實行するに如かず▲土地國有論の詳細を知らんと欲せば本書を讀め▲九月十日初版千五百部發行

青年と生存競爭
安藤兎毛喜著　定價[illegible]錢

（此書に限り定價の二割引）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子供心

安部磯雄

私は此頃ある新聞の記事を讀んで不圖感じた事がありました。それは滿州に出征して居る軍人の話で、此人達が日々の野營生活に飽き果てゝ、無聊に苦しむ折には、叢から蟲を捕へて來て、籠の中で其美しい音色を聞いたり、或は谷川の水を引いて泉水を作らへ、其傍に木だの石だのを並べ立てゝ遊ぶと云ふやうな、極めて無邪氣な小供心を發展させる事が度々あると申します。あの荒らかな殺氣に滿ちた軍人の心にどうして又其樣な優しい小供心が起るのでありませう。私はこの疑問に對して斯く解釋をする。即ち、此人達の心は一に生死の問題に係つて居て、利害、功名なぞの念慮は、其命掛けの境遇の爲に、全く消えて了つて居ります。古語にも鳥の將に死なんとするや……鳴が ある通り、人が將に死むんとする時 心には一種の餘裕が出るものです。其餘 小供らしい、云はゞ罪のない淸らかな幼な時代に歸るのであります。其時其人の胸には一片の利害心もなければ、他人を惡む猜むと云ふ賤しい心も全くない。假令へは光風霽月、胸は只曇りなき鏡の如く、冴々と澄渡つて居るでせう。私は一命を抛つて出征して居る軍人が、右のやうに知らず〳〵小供心に歸る事のあるのは、寧ろ自然の事であらうと思ふ。

又吾人に兎角小供心を起させ易いものは、旅行でありませう。特に深山幽谷の間を跋渉したり、大海の上を越えなんぞする時は、最も深い感じを惹起すのである。私の記臆に依ると、丁度私が地中海から紅海へ出た時に、大變打たれた事があります。兩岸は廣い野原で、恰も其夜は十五夜です。私は皎々として銀盤のやうな月を見乍ら、只獨りデッキに立つて居たが、其瞬間、私の思想は眞に無邪氣な小供の如く、胸中の邪念

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は悉く其根を絶つて了つたものです。私はマザル、ネイチユア、即ち母なる自然に抱かれて、一時本來の小供に歸つたのでした。

こゝにもう一つ小供心を吾人々類に與へてくれるものは宗敎心である。一體日本人は西洋人に較べて、年の寄り方が無闇に早い。西洋人は其肉體に於ても思想に於ても、日本人の目から見ると可笑しい程若々しい。亞米利加の冬は氷辷が大流行で、就中月夜などの賑ひと云つてはない位。それが若い男と女とでもあるならば尤もに聞えるが、中には隨分年寄りの連中が若い者と同じやうに嬉々として遊び戲れて居ります。丸で小供と變りはありません。

日本でも今日の狀態を二三十年前のに比べると、餘程此小供心が發達して居ります。私の少年時代には、老人と若い者と云へば、其間に非常な懸隔があつた。田舍で男の子が十五六にもなると、もう腰に煙草入などを下げてなか〳〵鹿爪らしい樣子をしたものです。特に、それには早婚の弊が伴つて來て、ともすると不活潑な若年寄が出來ました。それかと申して、今日と雖も、まだ〳〵欠けて居る點が澤山にある。即ち、年寄連中が若い者と一所に遊戲を共にすると云ふやうな事は到底見られぬ。所謂年寄の思想は小供の思想と全然違つて居る。歐陽明が申したと云ふ言葉に、四十歲になつた故、これから初めて勉强に取掛る。とあるさうですが、流石に大人物丈に考へが大きい。西洋では、四十代の人はまだ眞に若い人である。思ふに、これは全くキリスト敎の感化であるに相違ない。其敎へに依れば、白髮の老人も矢張神の愛子である。本人の心も常にこの思想を以て、幾歲になつても、神には矢張一人の子供であります。

ある敎會に一人の宣敎師があつた。此人の母親は非常な老人でありましたが、宣敎師自身も早や六十歲の聲の掛つた人の仲間です。此兩人が一所に住んで居ると、この六十の伜が如何にも小供らしい振舞を致し、母親の方は又如何にも母親らしい優し味を以てその小供に對して居た。母親は大抵毎朝伜を呼止めて、「お前

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は今朝バイブルを讀みましたか。」と、丸で十歳斗りの小供に尋ねるやうな口調。すると、六十歳の小供は物柔らかに「はい、母上樣、讀みましたよ。」と答へるが例であつた。日本では到底見られぬ圖です。日本の小供は直きに大人になりたがる。娘の子は直きに髷を結ひたがる。細君となると年寄じみて來る。これ等は甚だ善くない思想です。

すべて西洋人が年寄つても若々しいのは、一にこれ父なる神と云ふ思想に歸するのであります。四五日前私は私の曾て學んだ米國の大學から、印刷物が屆きました。其中に私が一寸見て感じたのは、其學校の委員が新任校長に對してやつた演說の最後の一句です。それは「貴下の思想の中に、又行爲の中にも、神が居ますやうに。」と云ふのです。これ實に威嚴ある言葉である。神は吾人の父であるが故に、吾人の思想にも行爲にも、この父の面影が見えるのは眞に望ましい事である。かくてこそ、人は常に邪心なき小供心を維持して行く事が出來るのであります。

家庭理科 趣味ある問答

二葉生

所謂天保人間と云ふ種族の人は、ヤレ稻荷！ヤレ靈魔！と有難がつて騷ぎ。山芋は鰻になり、柳は幽靈になり、腐草が螢になると信じて居りますが、私等はそれを疑はれてなりませぬのみならず、わかつて居るやうでわからぬやうな事が、山々あつてならぬ。そこで此の「面白き問答」は一面、不思議問答ともなつて、皆樣に其の心の中の、不思議とか迷信とか云ふ分子を時々追ひ出して戴ふと思ひます。

○草葉にはナゼ露が多い？

地面の上の、あるとあらゆる物は、空氣より早く冷へますから、空氣の中の水蒸氣が、自分より冷たい地上の物に觸れて凝り縮り露となるのであります。さて、地上の諸物の中、草木の葉にばかり露が多いのは、植物の葉が他物より多くの水分を發散させますので始終それを補ふ爲めに、根から水分を吸ひ上げます。そこで夕方俄かに涼しくなるので、蒸發しやうとした水分は葉面や葉緣で、美しい露の珠を結びます。

けれども同じ植物でありながら、草葉が木より露の多いのは何の爲めでしやうか、それは體が少くて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

柔で、水分を根から吸ひ上げることが活潑だからです。尤も稻などは、其の緣へ、水を吸ひ上げる維管束が達して居て、そこから水を吹き出すので、見る〳〵音をさせて露の玉が出來るくらゐに思はれます。

◉光が強くて熱くない燈火は無きや

日本の夜を明るくして居るものい火焰で、火焰には光と熱とが伴つて居ます。が、もし其熱力を光力に移すことが出來ると、電氣十六燭光を出す丈けの力で東京全市を照すことが出來るそうです。

さて現今では、熱の無いもので光力の強いものは螢の光りでありまして、渡瀬博士は近時這處に注目せられて盛んに螢研究をやつて居られるそうです。若し螢の光を燈火に應用することが出來ますと、危險で衛生に害あるランプが不用になる上、火事が少くなつて、つまり人類の幸福を增進すること、蓋し少く無いでしやう。

◉温州蜜柑にナゼ種が無い？

果物で種子か核かの無いものは温州と樽柿だとのことです。して温州蜜柑の花は、彼の花粉を受けないでも立派に實ること丈け、他の植物と異つて居ますが、種のない事に就いては、未だ深く研究した者も居りませぬ。

併し、偶然に出來た不具者を養成し、接木挿木によつて繁殖さした結果に違いない。けれど、其の偶然を偶然でないやうにするのが、是等を研究して世を益し、人の疑を解うとする學者の目的だと思ひます。

◉花の色の變らぬ工夫は無きや

いづれ乾かした花、即ち揩葉にした花を云はれるのでしやうが、中々難かしいことであります。けれど、近來、獨逸の一科學者の發明によりますと、ケシのやうな纎弱な花でも、能く其の色を保たせることが出來るそうです。元來花が色を失いますのは、空氣中のアンモニヤと云ふ瓦斯に觸れる爲めですから、水九分に、蓚酸一分の割合で混せた液を、紙に浸して花の標本を壓搾すると、此の成分の化學的作用によつて、少しも色が變らぬそうです。しかし是は、斯く申す私も、未

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ應用せぬことでありますが、餘り輕便なことだから御試驗下さるも面白いと思ふ。

●日本人はナゼ鹽を多食するや

少々理屈臭いがザッと申します。一體植物の體中には鹽素や曹達など〻云ふ食鹽の成分が少くて、加里と云ものを最も多く含んで居ます。ですから野菜を多食する我々は、つまり加里鹽類を多食することになります。ところが加里をタント食いますと、生理上曹達や鹽素を割合多く體外へ排出するやうになると申します。そこで其結果、血液が鹽素や曹達と云ふ例の食鹽の成分の缺乏を告げます。さアこうなると鹽素と曹達とが化合して出來た鹽化ソジユム、即ち食鹽を攝らないと、我々の食物に成分の不平均を來してイケぬことになります。

注意 ▲二葉園藝（花好きの人の質問隨意）▲家庭通信（讀者諸君よりの通信を揭ぐ）▲西洋料理の栞（詠亭主人擔當にて質問に應ず）▲讀者の顧問（新家庭を作る人に取つての相談役）

菊の歌

△まさり草　（寛平菊合）
すへらぎの萬代までにまさり草、
たまへし種を植し菊なり

△里見草　（藏玉集）
庭もせにさくてふ色や里見草、
まがはぬ色を籬にぞみる。

△がはらよもぎ　（秘藏集）
さはひこめおく我宿のませの門に、
かはらよもぎのうたゝかれけり。

△こがれ草　（藻鹽草）
名にしあふあづまの野べのこがれ草、
これもみつきの數につまゝじ。

△おきなぐさ　（篠目）
秋くれば花は開くや露ながら、
名は翁ぐさ色にはへつゝ。

△霜見草　（莫傳集）
心あてに折らばや折らん初霜の、
おきまどはせる白菊の花。

△いなて草　（藻鹽草）
長月の九日にさくいなて草、
花は八重にて萬代そへん。

△秋な草　（同）
花ちりて其名ばかりに秋なぐさ、
かたみにおけるけさの露かな。

△秋しくの花　（同）
あさちふにまじる草葉もかゝるまで、
野にのこりけるあさしくの花。

△露我菊　（萬葉集）
かのみやる池べにたてるそが菊の、
しげみさえだの色のこてりさ。

ランダル家

〔英國の家庭敎育〕

渚山 譯

九　新生涯の曙光

火災のあつた數日後、ランダル夫人は豫て其夫の心配で出來たシンプソン老人の新住居を訪れた。老人は夫人の顔を見ると大變に喜んで、「娘は未だに燒けた物を思ひ出して悲んで居りますが、私は其樣につまらぬ事を考へるのでないと申すのですよ。第一家内が一人も傷かず、道具類も大抵無事で出たのだもの、神樣のお仕打はまだ〳〵決して私達に辛くはありません。」

『それにピンチャー（犬の名）迄もねえ。』と小供の一人が老人に相槌打つと、何時の間に何處から來たものか、アルバアトに助けられた幸運の犬が身體を縮め、尾を振動して、只管感謝に堪へぬもの丶如き風情をするのである。

『そうよ。此奴は仕合せ者よ。あの若い紳士のアルバ

アトさんは汝の大恩人だぞ。――　其後はどうて御座いました。別段に火傷などはありませんでしたか。』

『はあ、もうぴん〳〵してますよ。あの子はあれ以來大得意で居ります。』

『いや誠に有難い事で。見上げた氣象のお子さんで御座いますよ。』

云ひ乍ら、尚もアルバアトの勇敢な振舞を稱揚へやうとする。夫人は態と話題を餘所に外して、

『お爺さん、一體今日はどうしたと云ふの。大變顔の色が好いのねえ。火事の爲に何か仕合な事でもあつたのか知ら。』

『いえ、奧樣、實は今朝好い便りがあつたのですよ。好い便り！家の姉娘奴が奧樣、突然に此古巣へ手紙をよこしましたよ。これサラよ、其所の手紙を持つておいで。』

老人の兩の頬にはもう嬉し涙がばら〳〵とこぼれて居る。彼は娘が取出して來た手紙を手に受取つて、『奧樣定めし覺えて入らつしやいませうなあ。家のキテイ

を。家を出てから丁度今年で十二年目、隨分古いお話で御座いまするが……」

「はあ、あのキテイさん、覺える居る段ではないわ。あの子は妾が受持つて居た級の生徒だつたんだもの。」

「さう／＼左樣で、いろ／＼御厄介を掛けましたもので。御存じの通り、あれの消息は全く長年の間絶えて了つて、もう早や死んでゞもして了つたものと思つて居りました。さうでなければ、一度位手紙が來さうなものですからなあ。母親が病氣の時にも、彼奴の事ばかりを苦に致して、キテイが／＼と毎日云ひ續けで、到頭亡つて了ひました。所が奥樣、意外な事には、其死んだと思つた奴から、此樣な手紙が參つたのです。さあ、まあどうぞ開いて御覽下さいまし。」

夫人は大變に驚かされた。自分とてキテイが未だ此世の中に生きて居やうとは思はなかつた。それは又どうした理由があるのであらう。と思ひ／＼手を慄はして、開いて見ると、紛れもないキテイの手蹟、見覺えは慥にある。彼女はまだ戀しい母が家に居る事と信じて、此手紙を書いたのらしい。其全文を掲げる。

「懷かしい御兩親樣――私が最后の手紙を上げましたのは、まあ幾年前の事で御座いませう。私は今改めて此手紙を書かうとしますが、餘り心に耻入つて申上げるべき文句が少しも出て參りませぬ。何は兎もあれ私は神樣にお祈り申して、私の犯した重い罪を免して戴きます。さうして、御兩親よりも同樣にお許しを願ふのであります。

私の一番最后の手紙は何處から差出したのやら、それも一向記臆しませぬ。以來何十遍となく私は居所を變へて、彼方此方と渡り歩きましたが、私が惡い道に這入つた抑もの初まりは、ホープさんの宅で奉公をして居る時でありました。今日から思へば、あの奥樣は見て居たよりはずつと立派な方であつたのですが、馬鹿な私は自分勝手な考へばかりで、もつと樂な所へ奉公したいと、此樣な事を毎日思つて居たものでした。此奥樣の傍を離れてから、私は幾度奉公の口を變へましたでせう。けれども根が我儘ですもの、行く處／＼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、何かの不平が御座います。窮屈な事が御座います。これも厭、あれも面白からぬと云つて、私が段々落ちて行く處は何處で御座いましたでせう。御兩親樣、それは神樣の入らしやらぬ暗の家々で御座いました。敎會へも參らねば、バイブルも何も全く用事はない譯です。終ひには手紙書く事さへ面倒になつて、こゝに始めて墮落の渦卷へ身を投込むやうになりました。

此樣な調子で、四五年の間も放埓な奉公をして居ります内、私はまあ有らう事かあるまい事か、つい〳〵お錢の欲しい所から、盜みと云ふものを覺えたので御座います。それのみか、終にはそれが雇主の目に止つて、危く牢屋へ投入れられる處でありましたが、奥樣の斟酌でそれ丈は許して戴きました。あゝ、これはまあ何と云ふ恥曝しで御座いませうか。私は此樣な事を母上樣のお耳に入れたなら、其場で泣崩れてお了ひなさらうとも思ひますが、一度かう迄改心した以上、此事を隱して置くのは倘更罪を重ねるやうに思はれる故、ありのまゝを辛抱して申上げました。

さて其家を出されてから、私は同じやうな善からぬ友達四五人と、メルボルンへ參りました。私は其所で裁縫や其外種々な賃仕事を致し、やつと糊口を支へて居た位でしたが、丁度其頃のある日曜日の事でありました。例の惡い友達と氣樂な話をして遊んで居りました時、私は不意に厭な氣になつて來て、今迄の愉快が一時に消えて了つたやうに感じたのでした。それは外の事ではない。どうした機會だか知らないけれど、急に家の事を思ひ出し、父上樣や母上樣や、妹の顏が目の前に浮んで來たのです。あゝ家ではもう私は亡いものと思つて居なさるだらう。私の事を語り合つて、どんな噂が出て居るであらう。と此樣な事ばかり其日は考へて居りました。

或晩私は獨りで寂しく、汚ない部屋で友達の來るのを待つて居ましたの。友達と云ふのは一人は女で、殘り二人が男の人、丁度九時に私の處へ落合つて相談しやうと云ふ約束があつたのです。其相談とは御兩親樣はお聞きになるでしよう。其相談とは、實に恐ろしい惡

事を企圖だのです。三人の人達は實は强盜で御座いました。あゝ恐ろしい！其時私は三人の仲間になつて、惡事の手助けをする事になつて居りました。

私は其晩妙に胸が騷立つて、裁縫も出來ませぬ。何とはなしに厭な氣がしてならぬ故、私は不圖手近にあつた行李（トマス叔父さんから買つて戴いたもの。母上樣は御存知でせう。）を引付け、中の物を引くり返して見初めました。するとねえ母上樣、私は其時初めてぞつと身慄ひしましたの。國元を出る時一杯にあつた着物が、大方なくなつて居たのではありませんか。殘つて居るものはお金にならぬ小切や襦袢の古いの斗り併し私は其時行李の底を探して、母上樣の寫眞に出會はした程、嬉しいやうな恐いやうな何とも云へぬ心持になつた事はありませんかつたの。『あゝ母上樣！』と私は六七年振りに、思はず知らず聲を立てました。全くですよ。長い間見捨てゝ了つて居た優しい慈悲深い母上樣の寫眞だつたのですもの。

あゝ一時此唇から甘い言葉を聞いたもの、それでも凝乎として眺めて居ますと、其情を含んだ唇が微かに動いて、「キテイよ、其所を逃出すのもまだ左程に遲くはあるまい。早く目を醒して新生活にお入りなさい。」と仰有るやうに聞えました。其溫さと自分の身の冷さと、其時私はどんなに煩悶をした事でせう。私は咽喉元が張裂けるやうな聲で、神の御名を呼びました。一步違へば底なしの淵へ落ちると云ふ危い塲所に居たのですから。

私は其寫眞を懷中へ押入れると同時に、手早く行李へ散らかつた持物を詰込みました。それから身仕度を調へると、宿の人へ「今晩友達が來たら急に約束を取消す旨を傳へて下さい」と賴んで置き、云はゞ逃げるやうにして家を出たのです。態と靜かな暗い町筋を選んで、罪の生涯の重荷を負ふて步いて居りましたが、かうなつて來ますと、神樣が戀しくなつて、後悔と不安と悲痛の思ひで滿々た胸の內は、神樣でなければどうしても鎭りませぬ。私は外へ出たとて、固より目的地とてはなかつたのです。けれども再び宿へ歸らうと

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は思ひませぬ。丁度其晩は宿錢丈持つて居たので、ある宿屋に泊り、翌朝早々口入屋へ出掛けて行きました此時の私はもう昨日の私ではない。私は奉公口の是非するやうな身の上でなかつたのですが、來る人々がどう云ふものか私を喜んで雇入れやうとして與れません。それも其筈でせうか。其時の私には氣高い人品と云ふものが丸て皆無であつたのですもの。

けれども世の中は鬼斗りでもないやうです。私が斯く後悔して落膽して居るのを憫然に思ひ、其塲で私を雇入れて下さつた一人の情深い方がありました。それが只今の主人です。主人の家は百姓で、メルボルンから五十里も離れて居ります故、私はかの惡い友達に縁遠くなつたのを喜んで居ります。最初は奥樣も私の姿や行狀を見て厭やな顔付をされ、「今迄何處に居て、何をして來たの」など尋ねられました。それから、「キテイさんは聖書を持つて居ますか。」と問はれて、私は答へに困り、到頭今日迄の罪の生涯を一々洩らさず物語りました。有難い事には奥樣は優しい性質の人で、

神の信者でありましたから、私の前身を聞いて嫌ふ處か、種々優しい言葉をかけて、面倒を見て下さいます此間も「キテイさん、何も失望するには及ばないよ。不仕合せな人なら神樣は尚ほ喜んで救つて下さる。それを何とか猜疑で思ふのはまだ高慢の氣が拔ない所爲だわ。」と云つて下さつた。

御兩親樣、此で改めて申上げるも變ですが、私は今日自身で幸福だとさう思つて居ます。御兩親のお膝元に縋つて居た時よりも、神樣と云ふものを知つた丈に一層幸福になつたと信じて居るのです。

併し、神樣が私の罪を許して下さつても、私丈はどうしても許す事はなりません。何と云ふまあ不人情な不孝な娘で御座いませうか。どの樣な顔をして御兩親の家に歸り、不孝のお詫をする積りで御座いませうか。けれども、私は心底から祈つて居ります。どうか近い内に十幾年振りの對面がしたいものだと。

私は前後も辨へず、まあ大層長い手紙を書きました。最後に申上げます。どうか私は御兩親の口から、只一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

言でよろしいから、今日迄の不行跡を許すと仰有つて戴きたいのです。
尚々ランダル夫人には此手紙をお見せ下さいまし。今日では夫人より受けた御恩が、殊更胸にこたへて有難たく感じて居ります。』

十　榮ゆる家

或日、庭園から家へ這入つて來る姉弟をランダル夫人は呼止めた。
『いゝ事を聞かせて上げやうねえ。先刻から叔母さんが捜して居たのよ。』
『いゝ事て何ですか。』と二人は異口同音に問寄る。
『印度から父上樣が家をたゝんで歸つて來るとさ。此手紙はもう其途中から出たらしいわ。こゝに貴下方のが一本宛あるから能く御覽、委しい事がおわかりだらう。』
チヤロツテは其手紙を巧く手に取り兼ねる程喜ばされた。頓て二人が叔母に依賴して讀んで貰つた手紙の旨は略ぼ斯うである。父親は此度本國の聯隊に歸任を命せられ、急に出發する事になつた。尤もこれに就いては餘程以前から薄々噂もあつたが、飛んだ前ぶれをして中止にでもなれば取り返しが付かぬ。小供等に糠喜びをさせたくなかつたからとある。此手紙を改めて受取ると、兩人は互に話合ひ乍らトムとエドガアの居る所へ驅付けた。
『エヂス(一番の末子)が妾達を覺えて居るか知ら。今年丁度五歳だけれど、此方へ來たら見る物聞く物に驚いて了ふだらうね。妾達だつて最初氷柱を見た時に、ガラスの棒かと思つた位だもの。』
『さうだつたね。姉さんが吹雪を見て、屋根の上で蒲團を破して居るのかなんて云つた事もあつたよ。』
さうかうして居る内に、突然父親から電報が届いた。それに依ると、途上英吉利海峽に於て衝突が持上り、爲に其所から一時サウスアンプトンに上陸するとある。此に於てアルバアトとチヤロツテは直にサウスアンプトンへ向ふ事になり、同伴者は親切な叔父叔母兩人であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「二人共二年前にハヅレハムへ來た時とは、大した變り方だわねえ。」

「轟々と鐵路の上を飛んで行く汽車の中で、ランダル夫人は思ひ出したやうにかう云つた。

「僕もさう思ふのです。父上樣と母上樣とが僕等を見たら、身體が健康になつた事の外に、大に喜んで下さる事があるでせう。」

アルバアトの答へに對して、叔父は嚴粛に合槌を打つ。「私もさう思ふ。どうかさうありたい。」

其刹那、何かは知らず恐ろしい響がして、乘客一同は全く目を廻はす程に神經を打たれた。

「あゝ驚いた。皆な別條はなかつたかね。」

ランダル氏のこの聲と共に、一同は列車の外へと飛出して見た。客の中に負傷者が大分あるらしい。滊罐車に接近したレイルから土手へかけて、二三個の貨車が破れて居て、其間に轉つて居る人夫は非常な打傷を受けたのである。果然列車と貨車との衝突があつたと云ふ事が解つた。幸にして、此列車中に二名の醫師が乘込んで居たので、彼等は負傷した旅客と人夫に應急の手當を施し、ランダル家の人々は臨時の看護手となり、ものゝ三十分も經つたかと思ふ内には、略ぼ療治の始末も付いて了つた。隨分劇しい傷を受けた者もあつたが中に、二三の人は手足を折られて不具となり、又一時氣絶をした婦人も見られたが、それでもまあ即死者のなかつたのは、まだしもの幸であつたらう。

此慘事が演せられた爲に、列車は其時間の上に可也甚い狂ひが生じた。すべての準備を調へ、再び出發の出來るやうになつたのは、それから三四時間もかゝつたであらう。ランダル一族が漸く以前の如く、列車に席を占めた時、主人は眼に涙を浮べて斯う云つた。

「私等は何と云ふ仕合せだらう。」

すると、丁度氏の前面に腰を掛けて居る一人の老紳士は、此言葉を聞いて敬神の情に觸れたらしい。「アーメン」と小聲で感謝し、さて言葉を改めて氏に向つた。

「私等は實に幸福でした。御一所に感謝致しませう。」

勿論氏は直にそれに同意した。老紳士は此に於て熱

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心なる祈禱を捧げた。

少焉あつて、老紳士は頗る眞率な態度をしてランダル一家の人々に話かけた。『いや私の今日あるを致したのは、抑も故ありです。只今の慘事が其往時を思起させる媒介となりました。』

云ひ／＼血氣に滿々た花やかなアルバアトの顏を見て

『實は私も此時分には、外觀の立派な若紳士で、心に靈魂の片くれもない癖に、一廉の信者のやうな面をして居たものでした。實際それは馬よりも劇しかつたでせう。』

胸に餘つて此感慨の緖を述べたのであらう。ランダル家の人々は此老紳士に淺からぬ敬意を表し、若し差支がないならば、其所謂「抑もの理由」を承りたいと丁寧に賴み入つた。

『譯もない事で、昔の物語でさあ。私は若い時から印度駐屯の軍人で、サア、カンベル氏の下に附いて居たものです。或日隊長はある用務の爲に森林へ一小隊を引率して行く事を私に命じた。當時私は中尉であつたが、仕方なしに出發しやうとして居ると、同僚のバワー中尉が「僕に行かせて呉れろ。君の代理に。」云ふ。私は實に喜んだねえ。其樣な甘い誂向の事が何處にあらう。早速私は命せられた其危險極まる職務をボワーににちり付け（事實に於て）まづ／＼大安心と胸を撫下したのでありました。果して、中尉は終に歸らず、ちり／＼になつて戾つて來た兵卒の話に依ると、彼は例の猛虎の餌となつて了つたのだ。』

『まあ、貴下はどんなに吃驚なさつたでせう。』

『吃驚！　どうして殆んど氣が顚倒しました。丁度今朝の衝突のやうに、身體が宙に飛上つたかと思つたです。何故でしたらう。良心が眼を醒したのでせうか。其時の感じはかうでした。「若し私が死んだものとすれば、私の靈魂は永久に救はれずに了ふであらう。何故なれば、私はまだ死ぬる準備をして居ない。」と。』

『此時から、私はボワー中尉を敬すべき人であると思つたです。彼は何時死んでも殘念でない程に、平生から用意をして居た。さもなければ、私が森林の虎に食

はれに行く事を厭がると同様、中尉も矢張その役目を拒んだ筈です。況んや自分から申出して迄、他人の代理を勤めやうとはしなかつた筈です。』

面白き會話は斯様にして進むにつれ、ランダル氏と老軍人は共に名刺を取交はしたが、こゝに不思議なるは老軍人がアルバアト等の父親を知つて居た事で、これには互の間に一層温き情味を保たしめた。彼は髯だらけの中から、溢るゝやうな笑顔を見せて、アルバアトに向ひ『君がサウスアンプトンで父上様を見たらバアカー大佐に逢つたと云つて下さい。此所に書いてあるのが私の住居です。遊びに來て下されば萬々有難い。』と名刺の住所書きを指示した。

アルバアトは餘り言葉を出さぬけれど、心では非常に感ずる所があつたらしい。其證據には、バアカー大佐の云つた「若し私が死んだものとすれば」の句を幾度となく唇頭で繰返して居た。

さて、愈旅程も了へて、親子眷族一座に對面と云ふ、人生に於て最も喜ばしき機會が迫つて來た。チャロッテ、アルバアトの兩人はどんなに胸を轟かせたか。彼等はもう渾身嬉しさに滿ちて居た。何ぞ知らむ。此時、此瞬間、兩親は其胸中に未だ曾て覺えざる悲痛を感じ、母親の腕には少さきエヂスの姿が缺けて居たのである。チャロッテは女丈に、母親の顏を見ると、直に尋ねた。『母様、エヂスは何處？』

見れば母親は一言の答もなく、ハンケツで頻りに瞼を抑へて居る。

『エヂスはもう居ないのだよ。今に委しいお話をしてあげるが、母上様には尋ねるのでありません。』

父親は代つて答へた。頓て相伴つて旅館に歸つた時、メドウキン大佐は改めて小兒頓死の事を話した。病症は劇烈なマラリア熱で、ボンベイを出た頃に發したのだと云ふ。かくして可愛き死骸は、これを海中に葬らねばならなかつた。メドウキン夫人は此小兒の逝去に依つて、殆んど傷心の極度に達したが、又一面から云へば、彼女の心を高き處に引付ける好機會となつたのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無論兩親は子供の樣子の著しい變化を見て喜び且つ驚いた。血色宜しく、肉は肥えて、面には若々しき活氣を以て溢れて居る。精神上の改善は矢張肉體のそれと同じく、全く別人であるかの如き感じがする。即ち、兩人共賤しい利己的の我儘と、因循な高慢な貴族的の性情とを離れ、如何にも少年らしく少女らしく、其理性と感情とは、何時も花の如く開き月の如く輝いて居るのである。

『二人共好い子供におなりだつたのねえ。』

母親はかう云つて、其目から眞珠のやうな涙を落したが、併し彼女の心にはまだどんな喜びにも打消し難き、一つの悲哀が蟠つて居る。

『姉さん、あの子のお墓が切めて目に覺える處にでもありましたら、妾は餘程慰めにならうと思ひますよ。何と云つても海の底なのですもの、厭ぢやありませんか。姉さん察して下さいまし。』

ランダル夫人は妹に對して斯う答へた。『何ね、エヂスさんは海の底に居るのぢやありません。神樣と一所に居ります。一度神樣のお手に托けて御覽なさい。貴女が育てるよりは、もつと上手に育てゝ下さるのよ。』

『あゝ、さうなの。船の上でも牧師さんがさう云つて下さいました。其方も矢張お子さんを印度で亡くしたとか話し居られましたが、妾はそれがどうしても信せられません。定めし神樣を今迄知らなかつたからでせうが、まあどうしたらさう云ふ風の心になれるのでせう？もう神樣は救ふて下さらぬでせうか。』

『決して、それは貴女の心柄一つです。悲しき事あれば我に來よ。』と云ふ御言葉がありますから、心配はない譯でせう。御存知か知らないけれど、昔の小說の中に、ある男が自分の都合の好い時には神樣を忘れ、具合が惡くなると神樣々々と祈つたと云ふ話がありました。けれども神樣は一度としてそれを聞入れてやらぬ折はなかつた位ですもの。』

メドウキン夫人は更にまた姉の言葉に心から打たれて了つた。『妾はねえ姉さん、小供が此樣な事になる迄とは、全く人間が變つて來たやうに思ふのよ。これ迄

は姉さん達の生涯が氣に入らなかつたけれど、今日では羨しくつてならないわ。主人も矢張妾と同し心持ちになつて、急に聖書などを引張り出して見てるのですよ。さうして見ると、あのエヂスは、妾達に新生涯の道筋を敎へる爲に死んで呉れたやうなものねえ。姉さん、あの子が何時も喜んで聞いて呉れた守歌を一つ歌ひませうか。』斯う云つてメドウキン夫人は美しい聲で唄を歌つた。一座は暫時森閑として、涯なき情趣に誰の顔も輝いて居る。あゝ淸らかな會合、意味深き對面サウスアンプトンの旅館の一室では此夜に於て最も光榮ある小歴史小思想史とを書綴つたものと云つても好かつた。

* * * * * * *

それから二ケ月程も經つて、ランダル氏の住居を去る路ぼ半里斗りの處に、メドウキン大佐の家が出來た。無論、アルバアト、チヤロツテの二人は父母の膝下に戻り、こゝに親子が比しく得たる信仰の下に、ランダル家にも劣らぬ程淸くして美なる新生活に這入つたのである。

（完）

（一六）

餘り長引いたので、恐らく諸君の倦怠を來した事でせう。此段は多謝します。以上十章中には甚だ幼稚な處があり、特に「神々」と頻りに云つてありますから、此方面の趣味を解せぬ方には、煩さく見えたに違ひありません。併し乍ら、西洋の文學を一面から云へばキリスト敎の文學で、どんな零碎の小冊子の中にも、神てふ思想は、ちやんと一貫して居るのが普通であります。要するに、譯者の願では、なるべく多くの人に依て、この一篇の小說の内より、氣にあつた善き敎訓を自由につまみ出して戴きたい。信仰如何の事は姑らく置いて論じませぬ。

秋の色（上）

菊の露手折らは花も消えぬべし　樗良
泡ぎくのはかなき名だに面白し　許六
吹き上げのきくをば今のみかん哉　宗鑑
九年母やそろ／＼甘き風の音　社弓
鎌倉の釈迦と榲桲實りけり　芭蕉
栩の實や一字をおとす三大經　其角
覓にはかちりと栗の秋更ぬ　由平
榧の實の皺も齢にくらべられ　暢中

洋食調理と其薬味

祿亭主人

すべて食物の調理に用ふる薬味は、直接に人體の營養を益するものではありませんが、之に味を附け、又其消化を助ける爲に甚だ有益なものです。これは日本料理よりも洋食の方に格別必要であつて、其種類も亦夥しくありますが、私は其中にも最も肝要なと思ふもの數種を撰び之に就て少しくお話し致しましよう。

一 胡椒

これは汎く熱帯地に産する蔓艸の實でありまして、其未だ熟せぬ内に採取して乾かしたものです。此薬味はグリース、ローマの古代から既に世に知られ昔は之を屢貢物となし、又貨幣に代用した事もあります。歐羅巴と印度との交通にも、未だ綿、珈琲、砂糖が貿易品とならぬ前から胡椒は其重なるものでありました。五世紀の初めにアラリック第一世が羅馬を攻圍した時、償金として多くの金銀を取つた外に、三千斤の胡椒を要求したと云ふ話があります。我國へは古來支那を通して印度から輸入したものでしよう。今日でも世界で其重なる産出地は印度のマラバル沿岸、ピーナン、スマトラ島、シンガポールの附近です。

胡椒に白と黒との二種ありますが、黒胡椒と云ふのは生實を乾かしたそのまゝで、黒褐色に皺がよつたものです。白胡椒と言ふのは黒胡椒の皮を剝ぎ取り、之を粉にしたもので、外貌は此方が奇麗ですが、其香味の強くして佳良な事は到底黒胡椒に及びません。故に食卓用だの白いソースなどへ入れるには白胡椒を用ひますが、其外は大低黒胡椒に限ります。又スープだの漬物には胡椒の實を其儘で用ふるのが良いようです。

胡椒の實は之を掌でもんで見て、若しも容易に粉になる樣なのがあればそれは古いのです、粉にしたのも餘り長く貯へて置くと味も香も無くなります。

二 芥子

これにも白と黒との二種ありまして、其成分にも多少の相違はありますが、之を粉にすると二つ乍ら黄色になります。芥子の峻烈なる香を放つは芥子油の作用

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

によるのですが、此揮發性油は芥子の粉末狀の時から存在するのでなく、水に潤ほして後初めて出來るものです。芥子にはマイロシンと稱ふる蛋白質と一種の結晶性物を含んで居て、此結晶性物を白芥子にあつてはシナルビンと名け、黒芥子に在てはシニグリンと稱へます。今水を以て芥子の粉を潤はす時は、マイロシンが醱酵素の役を勤め、此結晶性物を分解して芥子油を發生するのです。然るに此醱酵素の分量は黒白二種の芥子に甚しい相違があつて、黒芥子に於ては其シニグリンを分解するに餘りあるも、白芥子に於ては其量甚だ少く、自巳のシナルビンの全部を分解するに足りません。故に黒白兩種の芥子を混合したものが最も適當な藥味になります。又此マイロシンは攝氏六十度以上の熱に逢へば無効になります故、芥子を煉るには決して沸湯を用ひてはいけません。

芥子の煉り樣は人々の好みにより種々で、牛乳や卵の黄味やバタを加へたり、サラダ油、蒜葱などの汁をしぼり込む樣な甚だ複雜な方法もありますが、何れに

しても成るたけ簡單の方法で、又一時にあまり多量に調合せず、用に臨んで時々新しく拵へるのが宜しい。私が平生用ふる煉り方は左の通りです。

芥子末(二食匙强)砂糖(一茶匙)鹽(中小匙)胡椒(一つまみ)

右の四品をよく交せ合し冷水を以て稍かたくねり、後徐々に酢を加へて適宜のやわらかさにします。

日本で舶來芥子と云ふのは大概英國から來たものですが、其内には色々交せものをして隨分怪しいのがあります。其まぜものは多分麥粉の樣な澱粉質なので、之を檢出すには少許の煎汁をとり、其冷えるを俟つて數滴のヨヂユム丁幾を加へて見るのです。若しもそれが藍色に變せねば先つ純良なものと見て宜しい。英國芥子の内にも少々價は高いが、クロスブラックエル會社の樣な信用ある所から出たものは、氣遣ひなしに使用する事が出來ます。

芥子の菜を其若葉の時に採取すれば、香味兩ながら優美なもので、サラドの中に加へるには最もよきもの一つですが、稍成長してからは、其風味が餘り激し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くなつていけません。芥子菜を食用とするには、春は二三月頃から秋は八九月頃から、毎週間か二週間目に一度位播種すれば良いさうです。尚其耕作法の委しい事や、酷暑と極寒の中に育てる方法などは、「エデン花守」から御傳授を願ふ事に致しませう。

三　蕃椒

是は最も辛き藥味の一つであつて、ひろく日本料理に用ひられますが、洋食にも亦無くてならぬものです。殊に脂肪つよきサラダや消化し難き餌などを調理する時適宜に之を加ふるは甚必要な事です。蕃椒が消化機能を興奮して、其働きを熾んにするの効は甚大なるもので、熱帶地方住民の如きは之を多量に用ふる事によつて纖維多き野菜と風味少き米のみを以て生命を繋いで居るのです。私が嘗て印度に滯在中、初めて土人の拵へたカレー、ライスをたべた時、其辛さの烈しいので食後半時餘り口中に火傷をした樣に感じました。彼等が毎日拵へるカレー、ペーストには甚だ多量の蕃椒を含むのみか、之を調理するに方つても亦別に蕃椒を刻み込み、之を食べる時には皿の中にコロコロと蕃椒のきれが轉がつて居るのです。そして彼等の身體は所謂熱帶地貧血で營養に乏しく、且此刺激物過食と云ふ事が著しく彼等の胃腸を害して、印度に行はる丶赤痢病の素因ともなるのです。全體辛味を添へねば消化が出來ぬ樣な食物は屢食ふべきものでなく、又之無くして食物が進まぬと云ふ癖をつけては大變です。殊に小供や胃腸に炎性の病を有する人は、決して強き藥味を用ゐてはなりません。

四　蒜

蒜の香味は至極烈しいもので、之を使ふには非常に切なる注意を要します。多くの人が蒜の香を嫌ふと言ふは、あまり多く之を用ふるからで、若しも之を適宜に使ひさへすれば、スープ・サラド・ソースなどの藥味として甚だ必要なものです。すべての食品へ蒜の風味を適當につけるには、唯其容れ物へ蒜の小片を輕くすり附ければよろしい。或はパンの切れへ之を少しくこすりつけ、スープやシチウの鍋へ入れ、其香を幽かに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寫すだけで十分です。

右の外洋食に用ふる藥味は非常に澤山ありまして、一々玆に言ひ盡しませぬが、總じて之を應用するには、單に一種の藥味のみを多く用ゐず、種々適宜に混合し、何れ一品として殊更に鼻につき又口に障らぬ樣十分の注意を用ゐねばなりません。尙特種の食品を作るにつき、之に加ふべき適當の藥味に就ては更にお話す申す事もありませう。

秋の色（下）

火ともえてわびぬ水木の身ぞ浮世　　非蛙
誰待つて露置く茱萸の小紫　　水音
落る椋の實にはたらざる秋落葉　　芭蕉
腸に秋のしみたる熟柿かな　　支考
瓢樹の垣ふくれて人を寄りつけぬ　　來山
母親は柞の紅葉合點せず　　鬼貫
柿落葉親には勝る藝もあり　　野明
船頭も米つく磯の紅葉かな　　支考
負けぬ氣は損よかつちる紅葉哉　　野明

料理の栞（質問隨意）

▲●●●ヘット　牛肉の脂肪分より、ヘットを手輕に搾り取る方法を敎へて下さい。（鳥井商店內）

△答●　牛肉脂肪の內成るたけ奇麗な所を撰み、之を至極薄く且つ細かに刻み、ソースパンか普通の鐵鍋へ入れて、底が焦げつかぬ程少しの水を加へ、文火にかけて長く煮まして、それが殆んど透明になつた時、布をもつて壺か罐の中へ濾すのです。尙度々使用した油を淸める事は、前々號のフライの話に書いて置きました。

▲●●●●●マヨチーズ、ソース●●●●　五號家庭通信中の味噌のサラド至極結構でした。然し私はマヨチーズ、ソースの正式の作り方を知りませぬゆゑ、御敎へ下さい。又卵や味噌を用ひず、鹽と胡椒と酢と油ばかりでも、トマトなどはおいしく戴かれるやうですが、一體それに用ゆる卵の黄味は何の爲になるのでせうか。何か學理上の御論がありますなら御示し下さい。（橫濱睦女）

△答●　マヨチー・ズソースの製法を簡單に申せば、

卵黄(一箇) サラダ油(八食匙) 食酢(二大匙) 鹽(中小匙) 白胡椒(一つまみ)煉芥子(中小匙)砂糖(少々)蕃椒(末僅微)

是だけの材料を調へ、先づ卵の黄味をスープ皿の樣な底の丸いものへ取り、フヲークを以て二三分間よく交せ、そして油三四滴をたらし、又よくかきませて油をたらします。此順序で暫くすると、その混合物が追々凝固まつて、終に蜜蠟の樣に成つて來ます。そこで酢と殘りの油とを交る々々に數滴つゝ之に加へ、其度毎に十分よくかきませ、鹽や藥味も入れて遂に油が皆なくなる迄此法を反復します。これだけで四五人分のサラドに十分ですが、若も餘計に入用の時は油の量を半パイントにも一パイントにしても、矢張卵黄は一つで結構です。但し酢や藥味などは幾分か增さねばなりません。元來サラド•ソースに成効の秘訣は油を成るだけ少しつゝ加へ、其間に十分ませる事であります。これは最初暫時の間は殊更に必要であつて、後の方になれば少々餘計づゝ加へても大丈夫です。此ソースはあまり温な所で拵へたり、其器や材料が温な時は凝固り難く往々失敗するものです。又之を交るに右か左か、何れか一方へ廻す方が良い樣です。これは若しも左右錯雜した交せ方をすれば、分子の整列を破壞して兩者の混和を妨げるものだらうと思はれます。どれ程注意しても萬一何かの原因で分解しましたら、更に卵黄一箇を他の皿に取り、之へ失敗したものを少しづゝ加へて交せればよろしい。又氷で十分冷してよくかき交せますればよくなります。此ソースは一時に澤山拵らへて置て夏分でも涼しい所へ置けば二三日、寒い時候には數週間も保存が出來ます。これはすべての冷肉、魚のサラドなどにかけるには最も適當なソースであります。尙、サラドのソースへ卵黄を加ふるの理由は、第一卵黄が油を乳化して、酢の如き含水物と混和せしむるの力ある事、第二此乳化作用が油の分子を細分し、人體に於ける消化と吸收の機能を助ける事、第三これによつて油の油くさきを取り去るのみならず、其和合により、一種云ふべからざる美味を發生する事等です。

愛の教育

木下尚江

佛國では私生兒を始末するのに、私生兒救濟所と云ふやうなものがあつて、其母なる人は夜陰に乘じてそつと救濟所の窓口へ差入れに行くさうである。現今の狀態では、日本でも此種の始末所が是非共必要になつて來た。抑も私生兒の母親とは何者であらう。云ふ迄もなく、藝者、賣色者の類は、私生兒產出の特權者であるが、文明の今日では方に一層私生兒の母の範圍を廣くした。第一に年若き未亡人、第二に純潔な乙女――實に驚くべき事實だが、これを非認する事は到底出來ぬ。道學先生は弊風のある處を見て、品行を正しくせよと云ふであらう。又佛蘭西の女のやうな考を持て居る人は、この罪惡を避ける爲に、文明の利器を應用し墮胎、避姙などの、更に大きな罪惡を敢てする事もあらう。併し乍ら余は斯る單純な皮想な見解を以て、この恐ろしき大問題を全く解決し得たとは信ぜられぬ。

余は此華やかなる文明の中に、愈々益々發達しつゝある一大事實に於て、慥に二個の重要なる原因ある事を發見するものである。即ち其一は個人の責任、其二は社會の責任私は今此第二の點に就て研究して見やう。抑も社會は何が故に此責任の一半を分たねばならぬか。これを說明するには、同じく二個の部分が必要になる。一は人間の社會に於ける生活狀態、二が男女の性、云ひ換えれば經濟問題と戀愛問題との二つである。一方は金錢、一方は愛、双方全く無關係のやうであり乍ら、其實極めて關係が深い。

試みに一問を發せん。諸君は其各自の結婚を以て全く滿足なる結婚なりと信じ玉ふや。即ち初戀の成就が諸君の結婚であつたゞろうか。昔から思ふに別れ思はぬに逢ふと云ふ語がある通り、余は此世の中で人間最初の愛情を滿足せしめた男女が、果して幾人あるであらうかと思ふ。

近頃戀愛の神聖と云ふ事に就いて考へて居る人は、如何に多くの悲慘なる歷史が、現在に於て行はれて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るかに注目するであらう。この原因は何であるか。曰く、社會の法律社會の習慣、社會制度が即ち其恐ろしき慘劇の張本人である。これあるが爲に相思ふもの共に別れ、思はざるに結ぶと云ふやうな不自然を演出するのである。假令へば我家は何爵であるから、系統の貴い何爵の人と婚儀を調へねばならぬ、の如き、或は我家は我家の財產に相應した嫁を迎へねはならぬの如き、其外此種の條件を以て、結婚第一の要諦として居る人が澤山ある。斯くの如くして、人間自然の愛情は終に根底迄汚れて了つた。即ち財產や地位の價値は、愛のそれよりも數段高くなつて了つた。これ實に人類本然の人情に對する、酷烈なる壓迫ではなからうか。因襲の久しき、終には此壓迫が一般の婦女子を驅つて其良心を失はしめ、「世の中はかう云ふもの」と云ふ人生觀の下に、僞りの貞操に執着するやうな人間たらしめた。婚期の婦女は一も二もなく父母に命令に從はせられ、眞の愛なき男の許へ嫁いで、空しく其財產と地位との下に老果つるのである。これが果して貞操てふもの丶眞意であるか。

併し、昨今の婦人界を靜かに達觀するに、余はそこに聊か革命の機運が到來して居る事を認むるものである。從來の婦人は所謂深窓の佳人となつて、日夜安閑として、琴を彈し、茶を立て丶居ればそれで宜かつたにも係らず、今の婦人の多くは自分の手で自分の口を糊せねばならぬ場合となつた。官廳にも、工場にも、商店にも、又學校に於ても、妙齡の婦人は漸く深窓と云ふ故鄉から乘出して、營々役々として勞働して居る云はゞ絹紐で結んであつた囚人が、こゝに解放を得て新しき自由の天地を見出したのと同じで、これ明かに婦人が經濟的壓迫から免かれ得た證據——親や兄よりパンの供給を受けずとも立派に獨立の出來る機會が來た譯である。婦人にとつて、此程苦い經驗はなからうが又これ程喜ばしい經驗も是迄にはなかつたであらう。如何にも著しき運命の變化である。然らば此間にあつて一方の男子は如何に其身を處つ丶あつたか。今日の若き男子の品行論は二十年前の男子の品行論に比べ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、そこに大なる相違が出來た。二十年前の學生達は惡所通ひをする事を以て、左程に恥づべきものとも考へねば、實踐道德の上からも慥に不道德の行爲と考へられて居らなかつた。一例を引くと、其頃ある學者が執筆した改進黨の名士、小野梓の傳記の中に、彼は惡所通を只の一度で止めたと云ふ事を、如何にもれい〳〵と賞めてある項がある。併し、これに反して、彼等が良家の婦女と慇懃を通ずると云ふ一事は、同じ時代に於ては不埒の極と認められて居た。二十年後の今日の狀態は如何。若き人達は無論惡所通を以て最も恥べき所爲と信じて居る。引換えて、妙齡の婦女と情交を結ぶ事は、實に天晴な仕事となつて居るではないか恰も此情交は文明的の趣味となつて來た。何たる恐ろしき變遷であらう。世間の學者は此現象を見て甚だ善くないと云ふ。只善くないでは問題が解決出來ぬ。余は此突飛なる思想の變化に驚くと同時に、退いて又ある意味を其中から默會するのである。思ふに人は愛情なしに一日も生存し能はず。かるが故に、余は此等男女の關係を以て單に正面から不道德呼ばりをする勇氣を持たぬ。かの戰爭と云ふ罪惡の內にさへ、美しき人情の閃光を見るではないか。果して人間の愛情てふものが、其胸底より引去る事の出來ないものであるならば、宜しくこれを永久に存せしめ、更にこれを敎化鞠育する工夫を探るのが自然の道であるまいか。世には倫理と云ふものがある。併し倫理は愛情の保育者でなくして、實は愛情の殺人者である。

去り乍ら、こゝに一つ注意せねばならぬ點は、愛の自由と云ふ事を單に肉慾と云ふ事の區別である。余は實に此肉慾を厭ふものであるが故に、愛の自由を稱へ且つ又愛の育成を云々する。愛の自由は目を閉ぢたる人のする男女の情交ではない。現今に於ける若き男女間の思想は、愛の自由を主張するのではなくして、實に肉慾の叫びである。私生兒產出の前ぶれである。

孔孟の說既に古るび「男女七歲にして」の論法を以て此生きたる人間を導く事は頗るむつかしい。併し、社會が愈々進むに連れ、男女の間が益々密着して來る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事は爭はれぬ事實であらう。又經濟上の壓迫の爲めには理想的に家庭を組織する事が、至難の業となる場合が必ず來るであらう。米國での話に、ある紳士一會社に賴つて職を求めた。會社は快諾して頓で尋ねて曰く「貴君は家族がありますか。」「然り、余は今年四十歲です。」「然らば雇入れは御免蒙ります。」と終に出來た相談が水の泡となつて了つたとある。こゝにも明かに經濟的壓迫の閃光が見えて居る。何となれば、會社は可成的安き賃銀で以て、獨身者の雇入を希望して居るからである。

斯くの如く、一方には經濟的壓迫あり、他の一方には人類本然の愛のさゝやきあり、かくして社會が漸次不道德的傾向に流れて來るのは、實に數の免かれ難い所。この問題の解決には二つの方法がある。其一は金なきが故に家庭を作り得ぬと云ふが如き不完全な經濟制度を改める事。其二は愛に敎育を施して、愛に自由を與へる事である。

終りに余は日本國民が抱持しつゝある處の戀愛思想を少しく批評したい。ある小說家が其職業を抛つて敎育家となつた時、彼は其友に說いて曰く「余の年已に四十、若い男女の事を書いて居たとて始まらぬ話さ。」と。特に又近頃の戰爭の結果、大抵の小說家は悉く其作物に武裝を施した。何たる無定見であらうか。抑も小說家の職分とは何か。それは愛の神聖を擁護する役目である。社會の罪惡を寫して一方に愛の神聖を擁護しなければならぬ。文學者の戀愛に對する見解がかゝる淺薄なものであるとすれば、普通人の思想は大方推して知る事が出來る。宜なる哉、日本には未だ曾て戀愛に對する敎育と云ふものは產れなかつた。かくして、多くの男女は肉慾に措いて他に高尚なる戀愛のある事を知らなんだ。即ち私生兒を產む事より外に、何等の情緒にも觸るゝ事の出來ぬ男女が輩出した譯である。ソクラテースの語は、人は肉體に於ても精神に於ても愛を欲求するとある。寔に、人生の進步は雄大なる愛の思想の發展に外ならぬ。プラインドの愛、高調なる戀愛の緒に觸れざる孕みは獸の孕みである。而して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この大思想、大智識の中に人の子を薫陶せず保育せずして、只徒に男女間の情交を罪悪なりと判決するは、これ亦人情の機微を解せぬ沒分曉の徒輩、其心は實に石の如く爾く冷やかであらう。

▲太平洋食堂

祿亭君の新事業を紹介します。これは過般記者に寄せられたる私信の一節。君の風手人格が歴然として目に見えるやうです。

「私事先月の初から急に思ひ立ち、當地に太平洋食堂と云ふ一つのレストラントを設けんとて、俄かに家屋の新築器具裝飾の買入等非常にいそがしく、目下夜を日についで働いて居ります。尤自分の本業を捨てゝと云ふ程の勇氣もまだありませんが、藥賣りに走をかけた樣な今日の醫者の仕事があまりに單調にして面白くなきに厭き果て、何とかしてより多き利益を地方人に與へんものと圖らず之を思ひ附いたのです。玆にレストラントと云ふも普通の西洋料理店と違ひ、家屋の構造フヰルニチユーアの選擇、内部の裝飾等一々西洋風簡易生活法の研究を目安として意匠をこらし、中に新聞雜誌縱覽處簡易なる樂器室内遊戲の器具等を置き、青年の爲淸潔なる娛樂と飲食の場處を設くるにつとめつゝあります。其他日を定めて貧民を接待する事、家庭料理の稽古をさせる事なども重なる仕事の一つとする筈です。右等の設備も目下九分通りまで出來、ウエターコック杯の練習中にて、おそくも本月一日には開業の豫定に成りました。雇人に一通りの事を敎へる迄は自分カウンターに立ち、テーブルに侍し、又レンヂの前に働かねばならぬ譯で、玆三四ヶ月は八人藝をやらればならぬ事と思ひます。」

園藝

エデンの花守

○草木に關する迷信（一）

これからちよいくゝ集めてみやうと思ひます。從つて讀者諸君の御報道もたまはりたい。

▲惡夢を見た時に、朝の中人知れず南天に細言ならば其の事は眞實にならぬ。

▲松は常盤で長壽延命を意味し、其葉の針形なるは惡魔退治である。

▲柊の葉も、前同樣に云つて居る。

▲橙とゆづり葉、これは代々子孫に讓ると意味させて毎度ながら緣喜をつけて居る。

▲栗は勝つ、即ちかち栗で、古から武士の家で殊に珍重しました。

▲旅立する時、豆と胡桃と松の葉を、そつと其の人の袖に入れて置く、これは健康(豆)で來る身(胡桃)を待つ(松)の呪である。

▲出柏と云ふて、旅立する時に其の葉に食物を載せて食はせる。これは其葉が風に搖られる時にはお出くゝをするからである。

▲それから能く化ける木は、榎、柳、銀杏、杉などで そして其の化物は多く女である。あの淨瑠理に有名な三十三間堂は、其一例である。又一般に榎は荒神として祭られて居ます。

▲門の正面に木を植へるとイケぬ、それは閑の字の形であるから、家に閑人が多く出來ると申します。

▲それから又、方或は圓の庭の中に木を植ゑるな、困の形で家に困難を來すから……。

○食へる菌、食へぬ菌

左に此の兩樣の菌の鑑定法を書きますが、タマロフメケのやうに、香もよく色も鮮かで無くて切片も變色しないと云ふ、殆んど無毒菌の資格ではあれど、一個でも食すれば猛烈な害を受けて大抵死に到るそうですから、中々一槪に是れに依られませぬ。要するに能く知らぬ菌は少しでも食せぬがよい。松茸などでも油斷して多く食つて百日も病らつた人が往々居る。で、椎茸と同じいやうに、香氣を助くる一種の藥味として用ゐるのがよいと思ひます。

食はれる菌	毒なる菌
△空氣通りのよい乾いた地に出來る。	△深い林の濕つた地に生えて居る。
△白い色、或は褐色の。	△鮮な光りと色をもつて居る。
△質が緻密で脆い。	△質か柔かで多量の液を含む。
△切片を空氣に晒すも變色しない。	△切片を空氣に晒すと褐青綠などに變色する。
△指で壓し潰せば水のやうな液が出る。	△指で壓し潰せば乳のやうな液が出る
△香氣が爽快。	△香氣が惡い。
△味がよい。	△味が惡い。

○落葉集

▲花の香。一體日本の花は匂が少いやうです。外國の花は香氣がある上、其國固有の「花の香」があるらしい。即ち米國のは少し土臭く、印度のは麝香臭いそうであります。しかしこの邊から考へると日本の花は島國臭いかも知れません。

▲高山の花北國の花。高山の花は莖が短く小さくて、花が大きく美しいことは登山者のいつも驚くところであります。これと同理で北の方へ行くに從ひ、美い丈夫な花が咲き匂ふて居て、色濃艶であります。是は北海道の百合は、瓣が大きく色も鮮麗で、紅は益々紅に、黄は愈々黄なのでも證明して居ます。

▲橘の河越へ。橘が河を越へると枳殼になると申しますけれど、唯、似寄つた者になる丈けのことです。しかし是は、植物に氣候影響を受けて非常に變化するものがあることを謂ふたのですから、他から草木を移し植へやうとせられる方は「花と氣候」に御注意なさちんことを望みます。

○甘藍の種類 (前號の續き)

球莖甘藍

カブやダイコンと異つて、莖にカブのやうな太い球形の物が出來る種類であります。佛國の東部や獨國のアルリス洲で栽培な盛んにやつて居ます。今、米國で能く栽る二變種を擧げます。

▲Chou-rave Blane hatif　球莖が小さけれど早く生育する。

▲Chou-rave Vialethetif　前種と略同いが、球莖や葉柄が紫色なだけ異つて居る。(學名 Gongilodes 佛名 Choux-raves. 英名 Kohl-rabi.)

蕪菁甘藍

名のやうに性質形狀とも蕪菁に居まして、やつぱり其球根を食膳へ供へるのであります。普通に多く栽培する種類は佛國でシユナウエーブラソと云ふのです。(佛名 Choux-navet.s. 又は Rutabgas.

花椰菜

これも葉牡丹の變種で花蕾の嫩い時食用します。斯のやうに改良變化させたのですから花蕾の嫩球が小童の頭大になり、白黄色を呈しまして、美味で滋養分もあつて甘藍中の優品でありま す。また是は酢に漬けて長く貯られます。澤山の變種があります上、種

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子を採つても直ぐ變化しますから、用心せねばなりませぬ。（學名 B.O. Botrytis D.C. 佛名 Choufleur. 英名 Cauliflower.）

木立花椰菜 前種に能く似て居て居ますけれど、生長り方が異ふ上、伊太利の原産ですから一名を伊太利甘藍と呼びます。純然たる二年草でありまして花椰菜より眞直に生長まして長く、葉も多くて葉柄長く、花球は白色で上品美味であります。（學名は花椰菜に同じ。佛名 Choux Brocolis 英名 Brocli.）

○我が庭の秋

（浩山兄より）

此の頃の庭は新しい花に盡きました。唯朝顔が垣根に咲いて居る位のものです。尤も兄より下されし草花の二三種は今日に至つても餘命を保ち、秋の庭に一段の風趣を加へて呉れます。

即ち其の一はフロックスです。あの花は實に可愛いやさしいしほらしい花でした。それに色の變化があります。最早咲き初めてから百日も經ちましやうが、少し弱々しく葉など枯れかけて來ましたばかりで、花は撓まず褪せず、いつも笑ひどうしと云ふ姿です。

次にゑぞぎく、これは遲く咲いた丈けに三十日前頃迄實に全盛でした。私はあの薄紅の方より紫の方を好みます。何んと云ふ好い色合でせう。私は最初苗の時に小さな植木鉢へ五六本植へ付けて置きましたが鉢が小さい丈に菊の身體も小さく、其癖大きな花をつけました。私は此の一鉢を何時も食時の時に、食卓の中央に載せ、それを眺めながら妻と共に食事するのでありました。しかし今日此頃はもう◎きません。功勞のある美しい花でした。（此のゑぞぎくは通常のと種類が異ひます）

その次にはしだれ鷄頭です。あれは最初玄關の入口の片側へ植付けましたが、今日では非常な大きさになり、吾等の丈よりも高く、そうして其見事なかざりを四方八方にひろげて居て實に見物でありました。

私の庭は兄の下されし花の種の爲めに、今年は美麗な化粧を致すことが出來ました。來年は、より美麗に庭の面を作り上げ飾り立てる筈です。

蔬菜は二三日前、胡瓜と芋とをひいて新たに地面をこしらへ、三種ばかり蒔きました。如何に樂み多いことでせう。

△果物に眞寫▽

先年米國ニューヨルクの或る令孃が、交際社會に入る披露として、苹果へ自分の姿を寫しそれを五百名許の人へ送られたそうで御座います。是は極く薄い紙へ自分の姿を書かせ、それを果物の日光に當る方へドラガキヤンスと云ふゴムで貼りつけるのであります。もし其ゴムが無ければ鷄卵の白味でもよいので、是を貼りつけますには苹果が將に熟せんとする一週間前がよいそうです。それから熟して後其紙を剝ぎ去るとそれは〳〵見事なもの御座いまして、一個二百圓ばかりだそうです。（米國某新聞より、二葉生）

△土鍋の事を尋れし方へ 土鍋には鉛分を含む事なし。アルミニユームはこれを含めり。元來粘土の主成分は此アルミニユームにして、鉛にはあらず。假令鉛があるとしても、土鍋に入れる水が其中に炭酸瓦斯を含み居れば、それと化合して炭酸鉛となる故、人體には無害なり。（記者）

妻に與へたる予の手紙

枯川生

予の妻の死後、予は彼れの手箱をあけて、曾て予が彼れに與へた多くの手紙を見た。其の中で、讀者諸君のお目にかけて、餘り失禮で無いと思はれるのを、少しばかり茲に載せる。

○

岡本さんが叱た筈、氣をつけるが善い、養生が足らずに惡くなつては申譯があるまいがな、二三日中に行きたいと思つて居るけれどもまだ分らぬ。（中略）

序に少し說敎をしよう。

人には皆それ〲の職分がある、新聞を書く事を職分にして居る者もある。魚を捕る事を職分にして居る者もある。人の病氣を直す事を職分にして居る者もある、按摩を取る事を職分にして居る者もある、子を產み子を育てる事を職分にして居る者もある。

お前の職分は何であらうか。女であるから子を產み子を育てる職分がある。然しそれはやりそこなつた。今ではモウ出來そうもない。其外には何があるか、家政を整へる職分がある。然しそれも今は殆んど出來ぬ。其外には何があるか、夫を助ける職分がある。利彥は常にお前の助けを得ねばならぬ、が、病氣だから助ける事が出來ぬと云ふかも知れぬが、決してそうで無い。幾ら病氣でも助ける事は出來る。お前が善良な心を養つて居て、利彥が不了簡を起そうとした時にそれを諫める、それは即ち助けるのでは無いか。お前が強い心を持つて居て、利彥が弱い氣を起した時にそれを勵ます、それは即ち助けるのではあるまいか。お前が機嫌よくして居て、利彥が世間のうるさゝに氣を疲らして行く度にそれを慰める、それは即ち助けるのではあるまいか。慰める、勵ます、諫める、此の三つは妻が夫に對して盡すべき職分である。夫にたよる、夫にあまへる、夫にすがる、それだけでは只可愛らしいだけで少しも尊敬するには足らぬ。況んや、夫に迷惑をかける、夫に不快を與へる、夫を惡に導く、と云ふ樣では、婦人の德は少しも無い。人の妻たる婦人は弱い事ばかり考へずに、夫を慰める、夫を勵ます、夫を諫めると云ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけの氣慨が無ければならぬ。若しそこもとがそれだけの氣慨を持つて呉れるならば、利彦は今より少しゑらくなるに違ひない。若しそれだけの氣慨があるならば、幾ら病氣でも、よしや死にかゝつて居ても、其夫の爲には尊敬すべき有がたい妻で、一日でも永く活きて居て自分を助けて呉れるようにと祈るであらう。

「叱られても戀しい」と云はれるのは嬉しいが、今一歩進めて、其戀しい人をゑらくする爲に一工夫してもらいたいものだ。夫にあまへる代りに夫を助けてもらいたいものだ。利彦をゑらくするのも、阿呆にするのも、半分はお前の力にあるのだ。

モウ是だけにしておかう。

五日午後一時半

今日は好天氣　彦

おみちさま

○

行といふものは面白いものだ。何でもかまはぬ、こうしようと決心した事を必ず行ふのが即ち行である。水ごりを取るのも、坐せんを組むのも、看經をするのも皆行である。お前が毎日海岸に行つて砂をひろつて來るなら矢張りそれも行だ。行といふものは人のためにするのではない。自分の心のためにするのだ。いやと思ふ時があつても、こゝが行だからやめてはならぬと思ひかへして、一日も怠らぬやうにする。そうするとだん／＼に心も體もなれて來て、少しもいやでないやうになる。いやで無いやうになると同時に面白味が出て來る。まあやつて御覽、私の水浴も同じ事だ。そういふ風にして心にくせをつければ、何事についても心が靜かになつて來る。心が靜かになれば安心が出來る、病氣のためにも屹度よい。(中略)

丸の傷は元の處か、わるいやうなら洗つてやるがよい。鹽水がよいかも知れん。

寫眞が出來たら直に郵便で送つて下さい。

廿五日朝　彦

みちさま

○

廿五日十時夜、宿の物干に上つて月の光で此手紙をかく、あゝよい月だ、涼しい風も吹いてくる、お前はモウ寢ているだらう。裏の家の植込に鈴蟲がリリリンく〵と鳴いてゐる。いとゞも時々キリく〵く〵と鳴きだす。何となく哀れが催す。是れから此手紙を出しかたぐ〵、少し散歩して來て、それから寢るとしよう。

▲『女夫波』の事▼

『女夫波』の批評を是非にと、出版元からの依賴でありましたが、いくら小說だからとて、其樣に早く讀めるものではない。尤も、此頃では時間は金なりの積りか、新聞社などでは、序文丈を見て、堂々と書物の批評をなさる事が流行するやうですが、記者には其樣な風の洞察力が性來にない。それ故委細の事はこれを熟讀して後、ゆつくりと來號の誌上に掲げる手順に致す事として、こゝには外觀丈を一寸紹介して置きませう。口繪圖形は菊版、クロースの表紙の上部へ女夫波と云ふ文字を月に見立てゝ圓形の中へ金箔で出し、下部には女波男波をあつさりと出してある。口繪は清方の筆で、本篇の男女主人公が片瀨の海邊を睦しげに徘徊して居る處、其外紙質も先づ宜い方、製本も堅固、要するに體裁に於ては、殆んど間然する處のない立派な刊物であります。序ながら記者は此畫を見て不圖感じたのですが、此頃の小說で、其主人公になる理想的の靑年男女と云ふと、必ず江の島か由井ヶ濱か、其樣な風の海邊につれ出される。これも一種の流行か。

記者の偶感

△若き後妻

新聞の雜報には往々其所載の小說よりも悲慘な事實を傳へ、併せて世間の有樣、時代の暗潮等を至極明白に物語る事項が多い。先月の末、余の讀んで居る新聞の中に「夫人の自殺」と題して、次の樣な記事が載つて居た。

「……△△省高等官△△氏の夫人△△子(二十七)は去る二十六日、家人の隙を見て良人が秘藏の短刀を取り出し、奥の六疊の座敷にて、咽喉を突き腹を切り、其儘無殘の自殺を遂げたり。……△△氏は其先妻が長女△△(二十)次女△△(十五)を遺して病死したれば、翌年後妻として今の△△子を迎へたるが、△△子は元來虛弱の上腦病をも併發し……」

最後に此記事の筆者が意見を加へて曰く、

「原因は腦病の爲め精神に異狀を來せしならんも、同家は前記先妻の遺子の外、夫の弟及び甥の夫婦など同居して、家庭頗る復雜なれば、其間に立つ後妻の身として、種々面倒なる事情ありしならん。」

世間の人は此記事を讀んで哀れな話と思つたであらう。余も亦其哀れな最後には、深き同情の淚を禁じ得なかつた。併し乍ら、此運命は何も夫人の上にまぐれ當りに落ちて來たのではない。云ひ換ゆれば、夫人が抑も其若き美しき乙女の身を以て、夫△△氏の後妻に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

入り込んだ時、已に早や九分通り迄意地悪き運命の手に掴まれて居たのである。

余は此両人の結婚が世間の所謂良縁であらうとはどうしても思へぬ。況んや思想を少し高きに置いてこれを見たならば、此縁組が如何にも亂暴で無思慮で、其間に少しも愛の輝のない事に氣が付かねばならぬ。二十歳以上も年上なる夫を持ち、己より只七つより違はぬ娘を持つと云ふ事さへ、もう不自然の極である。特に夫人は性來虚弱、精神的にも肉體的にも重き荷物には到底堪へ得ぬ身であるに係らず、自ら好んで此様な危険な渦巻の中に一身を投じたのは、夫人の不心得で、殆んど常識では解釋の出來ぬ暗愚の沙汰と云つても好い。無論これには、多くの事情が纏綿して居たであらう。親の貧しきが爲に其犠牲となつたのか。其容親の美しかりし爲め黄金の光で買はれたのか。或は高等官の令室になれると云ふ淺墓な虚榮心に動かされて此事に出でたか、さもなければ、其意志全く義侠的の色を帯び、一命を棄てゝも△△氏の落寞たる（妻の死に依て）家庭の救護者たらんと云ふ意氣込であつたか、此等の事は尚は幾らもあらうが、余の見る所に於ては、前述の事情皆不可なり。總て病的なり。結婚の成立は兩性の愛の上にある。一方の愛が他方の愛ときつしりと合はねばならぬ。世の愛なき結婚ほど哀れなものはない。其人は破滅であり、其家は悪魔の巣であり、其子供は地獄の子である。

余は此種の若き後妻若くは妻が世間に數多く存在するのを見て、實に悲痛の涙に咽ぶものである。

△「思ひ出の記」

徳富蘆花氏の作中の逸品はこれを『ほとゝぎす』に取らで、余は『思ひ出の記』に取る。英國がチッケンスを産んで、『ダビッド、コッパアフヰルド』を得た如く、我日本は氏を得て、『思ひ出の記』を産んだのである。通篇皆な人情の聲にして一つの浮華なる思想を認めず、文章に於ても讀者をして再三玩味せしめる項が非常に多い。加ふるに輕快なるユーモアの加味して、知らず〳〵の内に讀者を樂天的光明の地に導いて行く所などは、斷じて凡筆の及ぶ所ではない。此書が出版せられて、日本の家庭は眞に未曾有の幸福を得た譯である。

ウイリアム、ル、キユー原著　價三十五錢
萬朝報記者松居松葉君譯　郵稅四錢

虛無黨奇談

原著者ル、キユー氏曰く「露國皇帝陛下に於せられては聖彼得堡の出版局の慫慂にしたがひわが著『罪の鎖』の發賣を禁止した自分はその勅命の恭けなきに答へんが爲めこゝに此『虛無黨奇談』を述作して之を皇帝陛下の乙夜の覽に供しやうと思ふ」と言何ぞ皮肉にしてしかも沈痛なるや記者松居君亦曰く『今や芬蘭土總督ボブリコフは革命黨の手によつて仆され內務大臣プレヴエまた暗殺せられ花の如き少女は皇帝をも狙擊しやうとしたと云ふ事である』此書は實に露國の活ける歷史と云つてもよい自分はこんな面白い本を獨りで讀んで感興を私してるに忍びず此戰爭の紀念として飜譯を初めた』と而して新演劇の俳優伊井容峰は夙く此奇談を演劇として眞砂座に演ぜんとす以て此奇談の如何に奇なるかを知るに足らん

東京々橋區尾張町

發賣元　警醒社書店

大和田建樹先生編

美文和歌

夕月夜

正價郵稅共三十八錢▲郵券代用無差支

待宵舍一門の歌文集なり或は春花の芳を競ふが如く或は秋草の野に吹き亂れたるが如し女學生諸君が作文詠歌の良參考たらん

婦女叢書　第一編

天眞爛熳

正價金拾參錢郵稅二錢▲郵券代用一割增

無邪氣なる小兒の言行を集めたるものなり怒れる人も泣ける人も之をよみてほゝゑまぬはなかるべし

東京牛込東五軒町

發行所　婦女新聞社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕便 # 瓦斯の煮焼 德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮焼用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

◎三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

◎瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく德用便利也

◎工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

◎臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尚各種式新器具は當社構内陳列所又は銀座陳列所さへ陳列縱覽に供居候御立寄御一覧被下度候

東京 神田 錦町 **東京瓦斯株式會社**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外科皮膚病（梅毒 痔痳）外（科的婦人科尿道器械的療法）

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

電話本局八八八番 一三八五番 東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

東洋内科醫院

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

南湖院

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

高田病院施診所

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

小兒診察 午前宅診 午後往診

牛込區南町參拾參番地

宍倉織造

（電話番町六百八十八番）

生儀多年濱田博士の助手となり東京產科婦人科病院に奉職中の處昨年同院を辭し左記の處に於て開業致し居候間此段謹告す

▲毎日曜日には濱田病院

副院長

醫學士 辻高俊氏

來濱助診せらる

▲入院患者の爲めに病室の設あり

横濱市眞砂町二丁目二十六番地

朝長鷹次郎

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飯倉四ツ辻 飯倉支店 電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目 赤坂支店 電話新橋二〇六八番
四谷大通り 四谷支店 電話番町五一〇番
牛込神樂坂 神樂坂支店 電話番町六三〇番
本郷一丁目角 本郷支店 電話下谷七二番
神田須田町 須田町支店 電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り
帝國貯蓄銀行
（電話新橋 八一六番 二八〇八番）

兩國米澤町 米澤町支店 電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通 吾妻橋支店 電話下谷七三番
南品川一丁目 品川支店 電話新橋一一三九番
横濱吉田町 横濱支店 電話横濱一三〇四番
日本橋坂本町 代理店 田中銀行 電話浪花二四〇番

此清心丹は全國到る所にあり

ニツケル罐入にてボツケト用に適す

懐中要藥 清心丹 ニツケル罐入 定價拾五錢

本舗 東京市日本橋區元大坂町八番地 髙木與

旅行又は平常携帯に便利也

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣欝ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢 廿二日分(常備用)金壹圓 十日分金五拾錢
六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢

本舗 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田口掬汀君著＝前編＝に對する世評一斑

家庭小説 女夫波

口繪 鏑木清方君畫
表紙 平福百穗君案
クロース装釘最美本
定價各六拾錢 郵税一冊八錢

前篇再版 後編 九月一日發賣

此書一度び出でゝ落寞たる文壇に華咲き淺薄なる戰爭文學に厭きたる讀書子は空前の喝采を以て之を迎へぬ多くの出版物店頭に山積して動かざる時三旬にして初版三千を賣盡したる一事に徴しても此書の價値を知り得べし

毎日新聞評に曰く

此小説が『萬朝報』に連載せられて幾多の冷やかなる家庭を温かならしめ、近來稀れなる好評を得たるもの、一に家庭的分子の豐富なるに起因す、……『女夫波』の主人公たる俊子は意志強き日本婦人の好模範として描かれたり。

女學世界評に曰く

明治上流社會の眞相を活寫して生活と運命との關係を描けるところ一種出色の才にして方今稀に見るの好小説なり、家庭讀むべし良妻賢母讀むべし、父母兄妹の間讀むべし、人生平和の慰藉を得んとするもの亦大いに讀むべし。

萬朝報の評に曰く

一毫卑穢の氣を帶ばずして氷りたる心を融かすの温味と、熱したる頭を冷ます涼味を貯へ、讀み行くまゝ知らず〱人を感動するに至らしめざれば已まざるもの即ち子の本領なり、子の小説はひとり青春の人に適するのみならずして中年の人、老年の人にも亦興味をあたふ。

發兌元 東京本郷區彌生町參番地 金色社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA